

らないのではないのではない
でしょうか。

教会と云うのは、一人の人が教の理を聞き分けて、信仰の喜びを体得し、その喜びを人から人へと伝えていくところに、一つのまとまりが出来、このまとまりから、元なるごばに願ひ出て、その設立を親神様から許されたのが、天理の教会であります。そして、どの教会も、みな、元なるごばの理を受けた、親神様、教祖の(お目標)を拝戴して、神床にお鎮まりいただいているのであります。

どうでもしん／＼するならば、かうをむすばやないかいな (五下り目)

と教えられ、この講が教会の前身であったわけであります。現在の教会制度ができるまでには、いろいろな曲折はありましたが、昔の講と、教会の違うところは、前述のとおり、教会はごばから許されたものであり、そして、その許しは末代のものであります。すなわち、人が変わり土地、建物の返還はありまして、一度許された教会は、末代消えることのないという、親神様からのお許しなのであります。

また、教会は神一条の理を伝えるところであり、たすけ一条の取り次ぎ場所である。と、示しているのです。また、土地とところにおける信仰成人を遂げていく陽気ぐらしのひながたともなるのです。

最も大切なことは、教会の主は親神様であつて、人間ではないということであり、その、親神様のもとに集う人々たちをまとめ、先達として教え導く役割を親神様から許されているのが教会長であります。例えば、教会は、元なるごばの理を受けた信仰を中心とした、公的な場所であつて、ごばに堅くつながっていると云うことであります。このため、所属する教会に尽くし、運ぶことは、すなわち、ごばに尽くし運ぶこととなるのです。これが、教会への日参り、月参りをして、親神様に感謝の真心をささげ、心を尽くし、運ぶことによつて、親神様から自由のご守護がいただける所以でもあります。と、記されておりました。

51部内の教会においても、それぞれに初代があり、今に受け継がれているのではないのでしょうか。まずは、初代様がどのような思いで、教会設

立に至つたのかを、しっかりと受け止め、それを胸に治め、次世代にとバトンをつながなければならぬと思うのであります。これは、教会ばかりではなく、布教所、講元、信者の皆様も同じだと思つておられます。そのために、ご本部からの打ち出しで、教会長子弟育成プロジェクトを立ち上げ、3年間皆様とともに勉強させていたただいたのです。その、勉強の成果を、今後、ずっと続けさせていたただかなければならないのではないのでしょうか。また、大教会の活動方針

「おやさまのひながたとは、ようほくを育て増やすこと」

・初席者104名・中席者280名と、掲げられています。今のご時世、にをいがけ、おたすけがなかなか難しいように感じられます。大教会では、奇数日に、にをいがけに出てくるのですが、今の世間では、朝から晩までテレビをつけるのと、流行語の様に新型コロナウイルスでもちきりで、訪ねると不快感を与えるような事態を招くことにもなると思つたのです。それでも人のご守護を頂かなければならないのです。では、どうしたらよいの

か。それは、皆様の方が一番わかっておられることと思つたのですが、斯道会で別席を運ばれて、満席まで運んでいない人の丹精に努めるのも良いのではないのでしょうか。一人のようほくをご守護頂くには、長い年月と根気のかかるものだと思います。この方に、あの方にと思つていても、なかなか声もかけられずにいるのが、今の私です。今は、一人の人でも欲しい状況ではないのでしょうか。それは、来年迎へさせて頂く、網走大教会創立110周年に向けての人がほしいのです。中席者、ようほくにとらわれず、以前、親が進行していた、祖父、祖母が信仰していた、また、なんらかの事情でそれぞれの教会から遠ざかつている方、また、少し信仰をお休みされている方たちがいるのではないのでしょうか。何かの行に、声を掛けあい、何かの行き違いがあるのならば、その元を話し合い、お互いの気持ちを確かめあうことが大切なのではないのでしょうか。

明治24年12月19日のおさしづに

だん／＼種を蒔く。運んだ理は日々受け取りてある。

これだけしたらと言っただけはならぬ。覗くだけではならぬ、どうもならぬ。世上の理取りたりすれば、どんな理がどうやら分からぬ。日日尽して嬉しい。尽さずして種を蒔けば、日々帳面をよごして居るようなもの。日日帳面消して居るようではどうもならぬ。日々嬉しい一つの種は、一粒万倍に成りて日々治まりて来る。

これは、尽くして嬉しい心、これこそお道の心と言へる。尽されて嬉しいのが普通の心であろう。苦勞して尽くしてお礼を心から言へる心、これこそお道の心。また、人の事を我が事と思つてどんな苦勞も喜んでさせて頂くのもまた、お道の人と言へる。とのこと

網走大教会創立110周年記念祭にしても、係の人たちがやればよい。どうせ自分は何も出来ないと思う人がいるとは思いませんが、どうぞ、皆様方の大教会ですので、今一度心を揃え、毎日楽しく勇んで記念祭に向けて進ませてください、それぞれが頑張った、良かったと言える、結果を残せるように、お互いに前に進ませてくださいたく思います。